

令和7年度 オーストラリア パラフィールドガーデンズハイスクールとの交流

1. これまでの取組み

本校は平成27年度より南オーストラリア州のアデレードにあるパラフィールドガーデンズハイスクール（以下 PGHS）と交流を行っている。主な交流内容は訪問と受け入れで、お互いの生徒が相手校の生徒自宅にホームステイを行うものである。昨年度3月に本校生徒（15名）が PGHSへ訪問し、ホームステイ、PGHSでの授業体験等を行っている。詳細は昨年度の報告にまとめてある。

2. 今年度の取組み

令和7年度はコロナ禍後初となる、PGHSの受け入れが行われた。4月から生徒には実施計画を提示し、7月に参加希望者向け説明会、9月に保護者向け説明会を実施し、10月に実際に受け入れを行った。11名の生徒がホストファミリーとなり、4泊5日の受け入れを行った。

3. PGHS受け入れのスケジュール

10月1日（水）午前中に本校へ到着

午前：歓迎会①（国際交流委員とPGHS生徒）、歓迎会②（全校生徒とPGHS生徒）
午後：校舎見学、ホストファミリーと合流

10月2日（木）

1 時間目：コミュニケーションⅠの授業へ参加

互いの国の文化に関するクイズに対して、両校の生徒が協力して挑戦した。本校の英語プレゼンテーションコンテストが近かったので、その発表も実施してブラッシュアップした。

2 時間目：古典の授業へ参加

百人一首を実施。PGHSで日本語の授業を履修している生徒が中心であるため、ひらがなを読むことができる。本校生徒と協力して実施することができた。

3 時間目：世界史の授業へ参加

歴史上の重要人物に関する英語での説明とその人物の写真や絵を組み合わせるグループワークを両校の生徒が協力して実施することができた。

4 時間目：英語コミュニケーションⅢの授業へ参加

欧米と日本の文化的な違いをテーマに議論が行われた。例えば、握手とおじぎの違いや、欧米式の握手の方法等が話題にあがった。その後ipadを活用して、オーストラリアと日本についての学習を実施した。

5, 6 時間目：茶道部の協力を得て茶道体験へ参加

茶道室にて実際にお茶と和菓子を体験した。また会議室において、お土産作りとして、うちわに飾りつけを行った。

放課後：放課後交流の時間（希望者）

全校生徒に希望者を募り、放課後に更に交流の時間を作った。自己紹介のあと、クイズ等を出題し、1時間ほど交流を行った。

10月3日（金）：1日江ノ島、鎌倉に遠足。

午前中は片瀬江ノ島駅集合後、江ノ島周辺散策。江ノ島の洞窟や水族館などグループごとに行き先を決め、交流した。

午後は鎌倉へ移動し、この日が全員集まる最後の日であるため、フェアウェルを兼ねた昼食会をレストランで実施した。その後鎌倉散策の時間を経て、鎌倉駅前解散した。

10月4日（土） 各ホストファミリーごとに1日を過ごした。行き先は様々で、ディズニーランド、三溪園、みなとみらい地区等を訪問し、PGHSの生徒を案内した。

10月5日（日） 午前中は個々に過ごしたあと、お昼に能見台駅に集合し、PGHS生徒と別れ、PGHS生徒は羽田空港へ向かった。

6. オーストラリア交流委員の日々の交流の中での感想（抜粋）

生徒A：受け入れたPGHSの生徒が日本に高い関心を持っていたので、日本文化の紹介をする場面もとても多かったです。英語の学習に加え、日本の歴史や文化に詳しくおくことが国際交流に大切だと感じたので、これからも頑張ってお勉強してまいります。

生徒B：当たり前だと思っていた日本の習慣が他の国では当たり前じゃなかったりしました。食事マナーなども違い、改めて文化の違いを考えさせられました。英語で上手く伝えられず、言葉が完璧に通じなくても、気持ちや雰囲気などは意外と伝わるんだって実感しました。相手が理解してくれた時や笑って話せた時は言語の壁を少し乗り越えた気がしてすごく嬉しかったです。また、文化が違っても好きな音楽が一緒だったり距離がぐっと縮まったというのが率直な感想です。学んできた英語に加え、ジェスチャー等を駆使して交流しました。交流の中で相手のことを知ろうという気持ちがすごく大切だと思いました。PGHSの生徒の方とは普通に家族のように過ごすことができ、楽しいと思う気持ちが大きかったです。

生徒C：最初は伝えたいことが伝わらないのではと不安に思っていたけれど、結果的には心配な方法を駆使して楽しく過ごせました。この経験を活かし、卒業後の進路にも邁進します。

7. 今後の展望

いよいよ令和7年度をもってコロナ禍後初めての受け入れを実現することができた。昨年度3月には訪問も実施することができた。訪問に比較し、受け入れは「おもてなし」の観点が変わり、綿密な計画とより多くの職員での対応が必要となった。幸いに意欲的な生徒と教員の協力を得ることができ、PGHSの生徒にとっても、本校生徒にとっても学びの多い交流をすることができた。

生徒にとっては海外の人との交流はハードルの高いものを感じるが、実際に交流してみると、同じ人間であり、同じ趣味を持って笑ったり、同じことに悩んでいることを実感できたようだった。今回、ホストファミリーとして、また授業等の様々な場面で英語を使って「通じた！」という経験をできたという声が聞こえてきている。こうした経験は英語学習、国際理解、自信など、様々な面で生徒一人ひとりにポジティブな影響があった。海外を訪れること、海外の生徒を受け入れることは責任と緊張を強いられる仕事ではあるが、その意義を見つめ、今後より発展させていきたい。